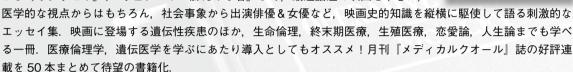
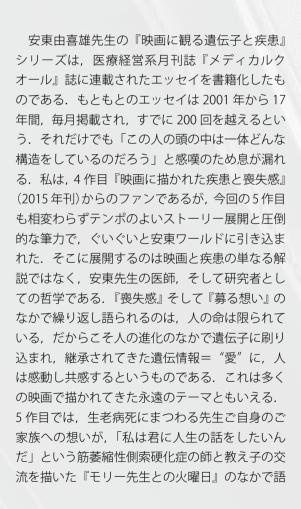
BOOK REVIEW

## 『映画に描かれた疾患と募る想い 安東教授のシネマ回診

## 安東由喜雄 著

- 288 頁 ●定価 2,000 円+税 ●医歯薬出版刊
- ◉内容紹介:映画から病気を診る、病気から映画を観る!『ビリギャル』『君の名は。』 から『オデッセイ』『レヴェナント:蘇えりし者』まで、最近話題の映画を中心に、





られ、患者への冷静で熱い思いが、家族性アルツ ハイマー病を発症した大学教授のアリスと家族を 描いた『アリスのままで』のなかで語られる. 一 方、『太陽がいっぱい』では目の色が主人公の心理 描写に大きく影響していたり、『31年目の夫婦げ んか』が Y 染色体に展開したりする. 一見縁遠そ うな映画と病態を組み合わせることで両者に対す るあらたな切り口を楽しませてくれる. さらに 『アポロ13号』が大学の運営費交付金の削減につ ながるところでは大学人の悲哀におおいに共感し た.

一般的に病棟の回診では、患者さんの全身状態 を把握し、病態の本質に迫る症候やデータを指摘 し、総合的なコメントするというのをめざしてい るが、実際にその領域に達するのは至難の業であ る. 『安東教授のシネマ回診』では、たとえ観てい ない映画でさえも全体像がイメージでき、それに 関連した病気の特徴が把握できる。 まさに余分な ところを削ぎ落とした上質の疾患スクリプトを見 るようである。安東先生の総合力がずば抜けてい ることに他ならないと思う次第である.

(宮嶋裕明/浜松医科大学内科学第一講座)

